

雲南視察の経緯と概要

2002 年度春期集中海外合宿調査「経過報告」

前事務局長 黒田 彰三

この合宿調査が行われた時の事務局長としての責務をまず果たさなければならない。2002 年度 11 月の定例総会の前に、2002 年度の春期海外合宿調査の「希望場所」に関してアンケート調査を行った(10 月 7 日)。三つの候補地プラス所員自身の独自の希望も書けることにしたが、結果は「台湾」「タイ」を抑えて圧倒的な多数で「雲南」に決まった。11 月 30 日神田校舎 13A での「第 80 回定例所員総会」で承認された後、具体的な準備に取りかかった。

事務局では、平尾光司所員が、雲南大学客員教授であることから、12 月 2 日(金)、生田教員室で古川所長(当時)と野口眞研究会担当(当時;故人)と黒田が平尾所員にお会いし、協力をお願いした。その結果、「株式会社 東京経営システム研究所 所長 北京大学顧問教授 清華大学顧問教授 西安交通大学名誉教授 長嶋要市氏」を紹介された。早速 6 日(金)に神田校舎教員室で長嶋先生との会合がセットされ、実質的な準備が開始された。種々の訪問場所や日程を含め、また雲南大学と専修大学の国際交流協定締結も視野に入れて、旅程の準備を開始した。

参加希望者を募集することも開始された。最終的には 23 名(研究参与 3 名を含む)で調査団が結成された。年が明けて早々、1 月 4 日に神田如水会館の喫茶室で長嶋先生を含む 5 名で実質的な準備に入った。翌週の 11 日には中国専門旅行社「悠遊ワールド」の「張」社長も来られて準備を開始した。旅行社が企画したパック旅行ではなく、社会科学研究所が主となって企画し、雲南大学に手配していただくという協力を得た形での調査研究旅行であるため、通常の国内合宿調査研究会とは異なる問題が生じたが、チームワークよろしく、出発までにこぎ着けた。また雲南大学との交流を進めるために「東京経営システム研究所主任研究員、許承豪」さんが通訳兼仲介協力者として、長嶋要市先生の特別のお計らいで成田出発から昆明滞在まで参加下さった。この場を借りて御礼申し上げておきたい。今回の海外合宿調査旅行の日程は以下の通りであった。

	出発地	発着時間	到着地	行事（午前）	行事（午後）
3月15日	成田	11:00 発 13:20 着	上海	機内	浦東開発地区 等調査
3月16日	上海	08:50 発 11:50 着	麗江	機内	少数民族居住地調査
3月17日	麗江	18:00 発 18:40 着	昆明	麗江古城世界遺産調査	昆明へ移動
3月18日	昆明滞在			昆明市人民政府訪問	西部開発 委員会訪問及 び開発地区立地工場調査
3月19日	昆明滞在			雲南大学学术交流（少数 民族セミナー（講師；陸 偉東氏）	雲南大学国際交流所副所 長 張健生先生を交えて 昼食会 学术交流会（雲南大学経 済学部副学部長、博士学 位認定教授 張薦華先 生、社研、田中隆之所員、 宮寄晃臣所員）
3月20日	昆明滞在			石林地区調査	少数民族村調査
3月21日	昆明	08:30 発 11:00 着	上海		
	上海	14:35 発 19:30 着	成田		



17日訪問した麗江古城世界遺産